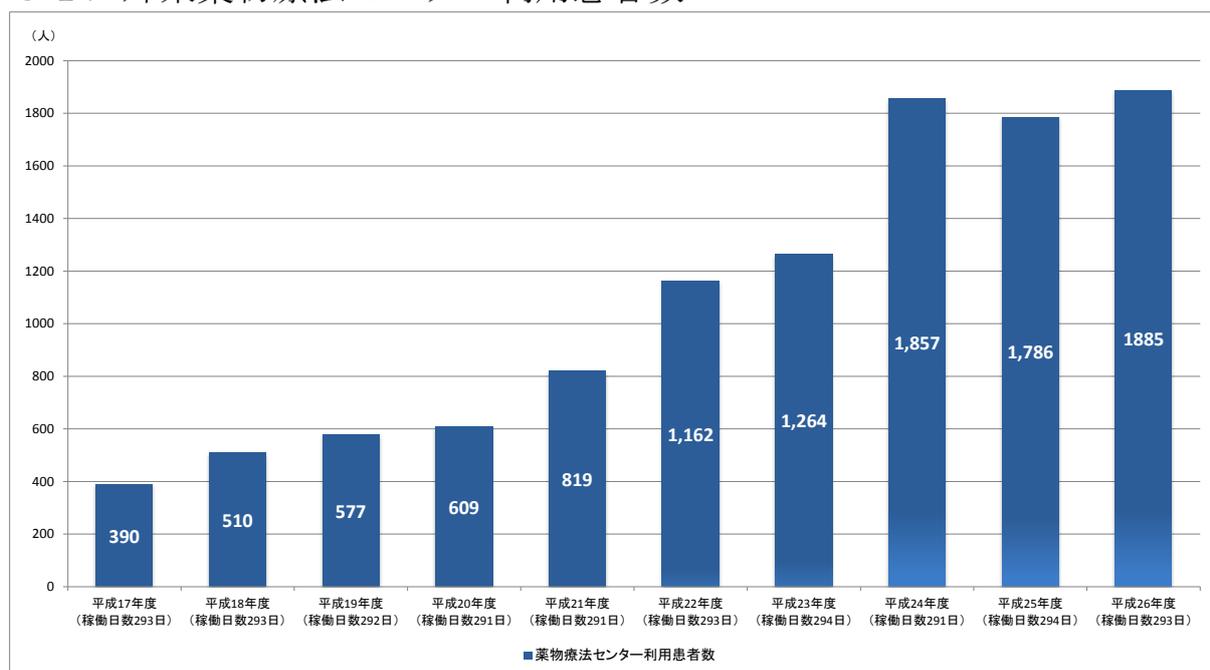


## 5 1. 外来薬物療法センター利用患者数



化学療法という劇薬を安全かつ効率的に患者へ投与するために、平成16年9月に外来薬物療法センターが開設され、それまで各診療科の外来で行われていた化学療法を、外来薬物療法センターに集約した。現在では生物製剤の投与も外来薬物療法センターで実施している。平成26年度は、1,885名、15,056件の治療を外来薬物療法センターで実施した。平成25年度に引き続き、治療総数は20%超の増加率であり、今後も件数は増加していくと考えられる。

外来薬物療法センターには臨床腫瘍科医師3名（がん薬物療法専門医・指導医1名、がん薬物療法専門医1名）、がん化学療法認定看護師2名、そしてローテートするがん専門薬剤師が配置され、安全で質の高い医療を提供している。特にがん専門薬剤師は現在当院に5名おり、ローテーションして外来薬物療法センター業務を行っているが、5名という数は全国トップクラスの人数である。これら多職種で毎日2回多職種がんサージカルボードを行い、PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを用い、安全で質の高い医療を提供している。この多職種がんサージカルボードには、がんプロ大学院生の医師や実習を行っている看護学生なども参加し、多職種のチーム医療の実践教育の場にもなっている。

総合病院における外来薬物療法センターのあり方は、その病院全体のがん治療の質を反映するものである。今後見込まれる需要増に向け安全で質の高い医療を継続するよう努力する。

データ提供 外来薬物療法センター